

# 学都屋台食談

第4回 石川県立看護大学  
学長

いしがき かずこ  
石垣 和子氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月6日から11月19日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で13年目を迎えた食談で、講師が語ったメッセージを紹介します。

## 友達と過ごす時間が居場所 興味が人間の幅を広げる

中学校や高校と違って、大学は全国から学生が集まります。最初は知らない人ばかりで不安なことも多いでしょう。ですが、しばらくすれば自分の居場所が見つかります。居場所とは、友達と一緒に時間を過ごすことです。大学時代の友達は腹を割って話ができる数少ない仲間であり、その絆は生涯続きますので、いろんな人と交流してください。

私は大学でバレーボールに熱中しました。うまくならないと猛練習したものです。比較のおおらかな時代でしたので、良し悪しに関わらず、学業以外にもさまざまなことにトライしたことを覚えています。

現在の大学は、きつちり授業で学べるという点では、学習環境は格段に向上していると思います。ただ、就職することがゴールになっていて、学生は何をしたのか分からないようにも見えます。学生時代は、自分が見聞きしたものを吸収する絶好の機会です。スポーツや芸術、政治といったいろんなジャンルに興味を持ち、人間的な幅を広げてください。

## 一つのことを突き詰める 柔軟に物事を捉える力も

皆さんは将来の自分の姿を思い描けますか。私は学生時代、脳の各部位がどのような働きをしているかに関心を持ち、大脳生理学という基礎研究に取り組みました。結婚を機に研究からは離れ、保健師に転職しました。45歳の時に再び大学で教鞭を執るようになったのは学生時代の人の縁でしょう。

この縁にたどり着いたのは、大学時代に一つのことを突き詰めて取り組んだからだと考えています。4年間という時間は短くもあり、長くもあります。何かに一生懸命になれば、成し遂げられることがあります。学生時代に興味を持ったことは、皆さんの人生の「根っこ」となりますので、そういったものに出会ってください。

ただ、没頭することは大切ですが、幅広い視野も持ってください。例えば、上から見ると丸いものでも、横から見れば三角に見える

ることがあります。ある方向から見て「こうだ！」と思っても、違う方向では全く印象が異なるわけです。近視眼的に凝り固まらないで、物事を柔軟に捉えていく力を身につけてほしいですね。

## 本を読むことで別の人生を経験 人生の可能性を広げる「種」を

ところで、私は数学を解いていれば幸せな人間でした。ある時、手にした本から別世界があることに気づき、以後は古典から現代まで多くの本を読みました。本の世界には、自分では得られない経験が蓄積されています。その経験とは、他人の人生です。私の人生は一度きりですが、本を読めば別の人生を経験したのと同じわけです。

このように学生時代にいろんなことを吸収できた私の脳も、今は新しいものを取り込む力に欠けています。一方、皆さんの脳は、いかようにも変化する柔らかさがありますので、人生の可能性を広げる「種」を、この時期に植えてください。

また、知らず知らずに記憶された文化は、生きる上でのアイデンティティーです。日本とアメリカの文化が異なるのは、子供の頃からの記憶によって生み出されます。今、強くこのことに関心を持つのは、大脳生理学に向かった時の「根っこ」が、まだ残っていたからだと感じます。大学時代に見つけた「根っこ」をいつか意識する時が皆さんにも訪れると思います。



参加  
学生

前列左から岩佐菜さん(石川県立看護大学4年)、細川誠代さん(北陸大学5年)、後列左から渡部琉晟さん(石川県立大学2年)、宮本悠輔さん(金沢医科大学4年)、田中智晃さん(金沢大学3年)

企画/榎アドマック 編集/榎都市環境マネジメント研究所

# 人生の“根っこ”となる興味を見つける



講師

石川県立看護大学  
学長

石垣 和子氏

いしがき・かずこ

1944年石川県金沢市生まれ。東京大学医学系研究科修了後、東京都神経科学総合研究所研究員となり、1979年から保健師を14年間務めた。看護教育に活躍の場を移し、浜松医科大学、千葉大学などの教授を歴任。2011年から現職。

石川県公立大学法人  
石川県立看護大学  
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY